

第3回京田辺市史編さん委員会（会議録要旨）

日 時：令和元年 10 月 25 日（金）

場 所：京田辺市役所 305 会議室

出席者：〈委 員〉山岡委員長、井上副委員長、小林委員、岸委員、上杉委員
林委員、白井委員

〈事務局〉前川市史編さん室長、河原担当係長、松本主任、藤田囑託

1. 開会

2. 委員紹介【事務局から紹介】

3. 委員長あいさつ【山岡委員長から挨拶】

4. 会議の公開について【委員長から説明】

5. 議事

1) 平成 30 年度・令和元年度上半期の事業実績について【事務局から説明】

- ・基本順調に進んでいると考えてよいのか。（井上副委員長）
- ・基本的には順調に進んでいる。（事務局）
- ・小田家文書は、どこで寄贈を受け入れているのか。（井上副委員長）
- ・教育委員会が寄贈を受け入れている。（事務局）
- ・受け入れた文書は保管・保存するとともに、公開に向けても取り組んでほしい（井上副委員長）
- ・市史編さん室と各部会との関係はどういったものか。（林委員）
- ・市史編さん室では各専門部会が手が回らない調査（石造物調査など）を進める一方で、各専門部会の先生方に要望を聞き、各専門部会の調査を設定している。（事務局）
- ・地域協力委員の活動はどういったものか（林委員）
- ・地域の調査に入る際の仲介役として、史料所蔵者や聞き取り調査対象者の紹介などを担当していただいている。（事務局）
- ・市民に対する編さん活動の周知や歴史資料の収集の呼びかけ等の広報活動は行っているのか。（井上副委員長）
- ・古文書に関しては、市域各戸を訪問し所蔵の有無を確認している。また、ホームページにも歴史資料提供の呼びかけを行っている。（事務局）
- ・市史編さんだよりや広報誌で編さん活動や史料蒐集の呼びかけなどはしているのか（上杉委員）

- ・広報誌への掲載は、広報京たなべや学びの情報誌があるので検討させていただきたい。(事務局)
- ・広報誌に毎回記事の枠を得て、市史編さん事業の過程でわかった新発見を発信できる場所を設けることは出来ないか。発信することによって、市民の方に新しい歴史資料の提供を呼びかけることができる。(井上副委員長)
- ・市の担当部局と調整させていただく。(事務局)
- ・今回の地理編には、自然地理は入るのか。(井上副委員長)
- ・地質などの執筆はできるが、動植物等の調査は検討から抜け落ちていた。ただ予算的には厳しい。近世の植生や地形図から読み取れる情報などは取り上げるが、現在の動植物の生態は検討していなかった。(上杉委員)
- ・京田辺市の指定文化財となっている植物などはあるか。(上杉委員)
- ・文化財保護委員も務めているので答えるが、そのようなものはない。(林委員)
- ・神社にある大きな木や、地域の中でシンボリックな植物を調査することは、今のメンバーで対応することも可能である。(上杉委員)

2) 令和元年度の事業計画【事務局から説明】

(特に発言はなし)

3) 刊行計画について【事務局から説明】

- ・刊行計画の変更は確定されたものか。(井上副委員長)
- ・現時点では、中世・近世部会と近代・現代部会で検討している段階である。(事務局)
- ・まだ、計画が決まっていないということか。刊行計画の変更は急いで決めなければならないのではないかと。刊行計画は、各部会が最も守らなければならないものなので、計画そのものが定まっていない状況で進行させていくのは非常に不安に感じる。(井上副委員長)
- ・刊行計画の変更を提案した私が補足すると、刊行計画の変更については第1回の編さん委員会で意見させていただいたが、第2回の編さん委員会では、中世・近世部会長の東先生が出席されていなかったもので、調整できなかった。そこで近代・現代部会では、資料編の執筆が近づいてきたため、仕様を決めなければならなくなり、中世・近世部会の意見を聞いた方が良いでしょうと考える、先日中世・近世部会と協議した際に刊行計画についても話し合い、刊行計画の変更に関ねご同意いただいたと考えている。ただし、現在は中世担当の先生に持ち帰り検討していただいているところである。(小林委員)
- ・事務局では、刊行計画を変更する方向で進めているが、中世・近世部会と近代・現代部会の調整がついていないので、まだ確定出来ていないという考えでよろしいか。(山岡委員長)
- ・その通りです。(事務局)
- ・編集に携わる各部会の意思疎通を図る会議を徹底すべきと考える。年1回の編さん委員

会とは別に、編集委員会のような専門部会長が集まる会議を定期的を開催した方が齟齬を来さないのではないか。(井上副委員長)

- ・ご指摘の会議の開催については、事務局の方で調整させていただく。(事務局)
- ・第4回の編さん委員会で仕様に関する原案を挙げる前に、部会間の協議の場が必要と考えますので何度か設定することを検討してほしい。(小林委員)
- ・資料編第3巻は来年4月から本格的に執筆が始まるが進捗はどうか。(井上副委員長)
- ・現在の3名を軸に進めていくが、執筆者はもう少し増員する考えでいる。(小林委員)

4) 本文編・資料編の仕様について【事務局から説明】

- ・仕様はいつまでに決定する予定なのか。(山岡委員長)
- ・刊行が令和4年度に決まっているので、令和2年度の下半期もしくは令和3年度の上半期に決定する予定であり、次回の編さん委員会で仕様について決定していただきたいと考えている。(事務局)
- ・本文編・資料編は全巻、統一仕様か。(井上副委員長)
- ・そのように考えている。(事務局)
- ・次回の編さん委員会には、事務局で原案を取りまとめていただき提案していただけると考えてよろしいか。(山岡委員長)
- ・このスケジュールでは次回に決まらないと困る。判型は写真の分量等に大きな影響を与える。また、市史の対象は誰なのかという問題がある。京田辺市民が対象なのは当たり前だが、見てもらうためにはどれぐらいの仕様がいいのかという視点で考えなければならぬ。(井上副委員長)
- ・フルカラーか白黒か、写真点数なども含めて具体的な仕様の原案を事務局から提案していただきたい。また、割り付けなどの編集は事務局の方で担当していただけるのか。(岸委員)
- ・割り付けについては、他市の方法を参考にして進めていきたい。(事務局)
- ・美術工芸担当の部会員にも意見を聴取しなければならないので、早めに示してほしい。(岸委員)
- ・執筆要項は決まっているか。(井上副委員長)
- ・他市史のものを収集しながら、現在検討しているところである。(事務局)
- ・割り付けして印刷に出すのと、そうでないのでは経費が大きく異なるので、注意が必要である。(井上副委員長)
- ・地理・民俗部会では、早めに仕様の協議をしており、地理としては大きめの判型を希望している。資料編第1巻の考古・古代で両者の仕様の意見が分かれた場合、巻の編成が変わる可能性がでてくるのではないかと。そうならないように、仕様の原案を出してほしい。(上杉委員)
- ・令和元年度末には、仕様の原案を先生方に提案できるようにしたい(事務局)

5. その他

1) 展示室における市史編さん収集資料の新規展示について【事務局から説明】

- ・このような取組は大切である。(上杉委員)

2) 京都新聞への市史編さん関連記事の掲載について【事務局から説明】

- ・市民の方にはどのように広報しているのか。(井上副委員長)
- ・まだ、広報誌では宣伝できていないが、中央公民館で市民文化祭を開催するのでその時に呼び込みを実施したい。(事務局)
- ・市史編さんとして本を刊行して、それをステップとして文化財を市・府指定や登録の足がかりとすることを建造物担当としては重視しているが、市史編さんと文化財保護との連携はなされているのか。(岸委員)
- ・市史編さん室と文化財担当部局は、同じ教育委員会に存在しているので連携は進めている。(事務局)
- ・広報活動も実績に含まれると考えるので、次回以降は一覧に掲載してほしい。(上杉委員)

6. 閉会

- ・他に意見がないようなので、これで終了する。(山岡委員長)
- ・次回に向け、ご指摘いただいた資料の準備と、先生方への調整はさせていただき、また本日出た意見については必ず検討させていただく。それでは第 3 回編さん委員会を閉会する。(事務局)